

マルセイニュース 8月号

発行日 2015/8/21

株式会社 マルセイ
浦河町東町うしお1丁目
〒057-0005 Tel 0146-22-5123



浦河町制 100周年

第53回浦河港まつり 8月14・15・16日

笑顔いっぱい 100周年の港まつり！

たくさんの笑顔に満ちていた浦河港まつり。会場で出会った風景から、ほんの一部をご紹介します。予定数の300食以上を完売！浦河小学校6学年23名子どもたちによる出店も大盛況でした。もちろん、デビューした「うらかわすずあかねのアイス」も完売！夏いちご生産農家さんたちの笑顔も眩しかった！毎年のことながら開催を支えている皆さん、今年もありがとうございました！



マルセイニュースでSB研の事を知り、「今後、家業を引き継ぐときに備えて勉強したいのですが、私も参加させてもらえますか？」と、30代の女性からうれしい問い合わせをいただきました。



商売のやり方に 答えはあるのか・・・

ときどき、商売のやり方に答えはあるのかなと考えます。どんな商売でも、こうやればうまくいくという法則のようなものです。商売というのは本当に様々だと思います。

すでにある会社を引き継ぐ人もあれば自分で起こす人もいます。起業の場合は「ゼロからの出発」ということもあるでしょうが、後継者の場合は負債も引き継いでマイナスから出発する人もいます。逆に優良企業を継いで余裕で経営を始める人もいます。ひとりりで商いをしている人もいれば、夫婦で店を切り盛りしている人もいます。従業員が数人から20人までを小規模企業としますが、このくらいは規模までを小商いと考えていいのではないのでしょうか。

月に一度の『SB研究会』 一緒に学んで、経営に活かしたい！

毎月一回、小商い研究会（SB研）を継続しています。7月と8月は、少人数の参加でしたが、かえって一人一人かなり掘り下げた話ができました。真剣に学ぶ女性の参加者も増え、その姿勢にも刺激を受けています。

顧客も、商いによってまったく違います。地元の方たちが顧客という商売もあれば、扱っている商品のほとんどは地域外のひとたちが購入するという事業もあります。ひとつ百円のモノを大勢の人に売る商いもあれば、特定のひとり、あるいは一社のみが顧客という商売をしている人もいます。この様に本当にいろいろです。

社長になったとき、ある人から大切なことを教えてもらいました。「商売には、心と技の両方が必要。どちらも不可欠で、どちらも磨いていかないとけない。」

商売には 心と技の両方が必要



これらの写真では、社長が一人で話しているみたいですが、そんなことはありません。みんな意見交換をしながら進めるSB研です。

十数年経って、確かにそうだなあと思うようになりました。いくら熱意や誠意があっても商品を扱う技術や知識がすぐれていなくては、良いサービスを提供することはできません。かといって自分が儲かるためのテクニックばかり磨いていては、早晚お客様からも取引先からも従業員からも会社が見捨てられてしまいます。

自分の商いにとつての「心と技」を磨いていきなさいという言葉は、誰の商いにも当てはまるものだと思います。SB研では、仲間といっしょに学びながら各々の商いの心と技を磨いていきたいと思います。

社長



さようなら、タンクローリーみどりくん！

2011年6月に納車された中古のタンクローリーみどりくん。みんなで相談して車体を緑色（ワーゲングリーン）に塗り替えました。社長とマックスの似顔絵ステッカーを張って走ったのも、なつかしい思い出です。その「みどりくん」とも、お別れの日がきました。今日までありがとう！



緑の季節に「みどりくん」とお別れしました^^



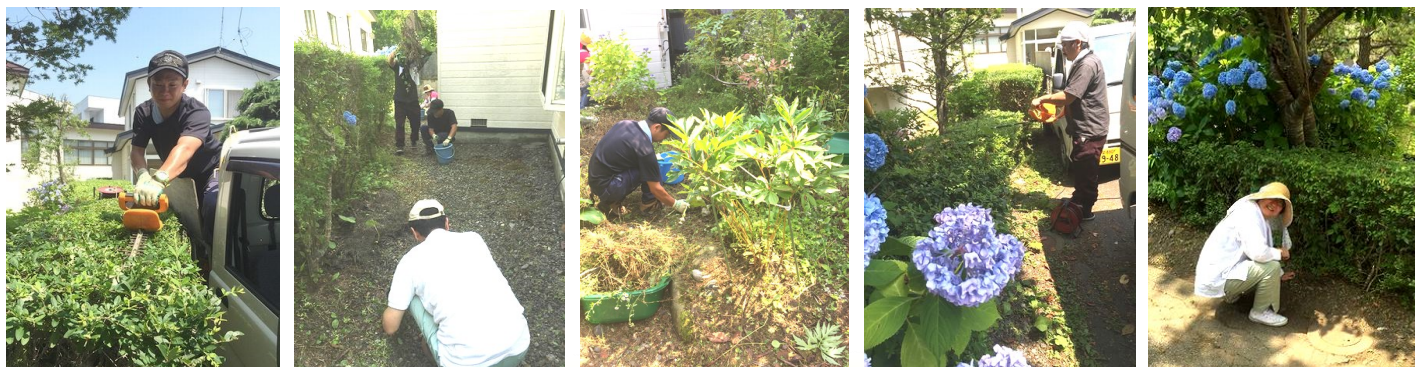
次のローリーの名は 何になるかな？

8月17日（月）、まだまだ愛着のある「みどりくん」とお別れしました。この4年間、灯油配送に頑張ってくれた車ですが、「みどりくん」とは短いお付き合いだったね」「いい色だったよね」と、まだ少し名残惜しかったです。探していてもなかなか見つからないタンクローリーですが、今回、とても良い中古車を見つけていただいたのでお別れを決めました。

この冬は新しいタンクローリーが配送にお伺いします！



なつかしい「青くん」の姿ですが、こうして改めて見るとひどい傷み具合ですね。みんなで頑張ってきたなあー。



この夏も、ご利用ありがとうございました！

マルセイの『暮らしのサポート事業』



草取りや片付け仕事など、この夏も『暮らしのサポート事業』を頑張りました。毎年お盆前のこの時期になると、繰り返しご利用いただいているお客様がいます。今年はそれに加えて、新規のお客様からもご相談をいただきました。

「マルセイさんに聞いてみたら？」と当社をおすすめして下さり、仕事をさせていただくことにつながるということがあります。本当にありがとうございます！

今月はお客様との仕事の確認の行き違いなどから、社長が謝罪にお伺いしたケースもありました。暮らしのサポートの場合、お客様からご相談をいただく内容は本当に様々です。中には初めてお引き受けするような仕事もあり、知識や経験が足りないことがまだまだ多くあります。一生懸命取り組んだ仕事を終えたときに、お客様から「ありがとう！」と笑顔を返していただけるように、これからも努力していきたいと思っています。

それにしても、湿度が高く暑い炎天下の中、この夏もみんなで頑張りました！

日焼け止めもたまには塗ってみたものの、気がつくとも今年もすでに真っ黒だ。ハア・・・しみが・・・

マックス



タンク内部のサビや水は大丈夫かな？

ホームタンクの無料点検実施中！



カメラを意識して・・・
ちょっと照れながらタンク点検

ホームタンクの下部にある『ストレーナー』はタンク内から送られる灯油をろ過してごみを取り除いたり、水を抜いてくれる役割を果たしています。タンク点検の結果、フィルター交換やストレーナー本体自体の取替え、タンク内のサビや水がひどい場合にはタンク洗浄をおすすめすることがあります。次の冬へ向けての大切なメンテナンスです。ご検討ください。



フィルターの汚れはあるものの、内部もきれいな状態のタンクでした。それでもタンクの底部分には腐食が始まっていますね。

当社の灯油定期配送のお客様宅に、ホームタンクの無料点検にお伺いしています。

汗かきの気田くんが担当していますが、この暑さではホームタンク内部も汗をかきます。夏場であっても、タンク内部に灯油が入っているほうがいいとおすすめているのは、結露による水の混入を防ぎたいからです。タンク内にたまった水やサビは、配管を通じて灯油と一緒に運ばれ、ストーブの燃焼不良の原因になることも少なくありません。



みんなでつくる浦河の小さな本屋さん

開店から9ヶ月が過ぎて..

営業日は、毎週月曜日 13:00~22:00



浦河町堺町西4丁目4-40



六畳書房が開店してはや9ヶ月ほどが経ちました。ずいぶん昔のように感じますが、週に一度だけの開店なので、営業日としては50回程度（！）始まったばかりみたいです。

さて今回は、ご依頼をいただき、いまの状況を簡単に報告したいと思います。11月のオープンから春くらいまでは一口店長のお申し込みやイベント出張販売もあり、おかげさまで月に20万円ほどの売上を維持してきました。ところが、僕が地域おこし協力隊から議員へと立場が変わったことで毎週の営業以外にあまり時間を割けなくなりました。

また、運営するのに多大なご協力をいただいた札幌のくすみ書房さんの閉店（6月21日）という予想外の事情により、仕入れられない本ができました。そのため増えてきた客注（ご注文商品）をお断りする場合があります。ネット注文した場合も早いにも関わらず「せつかな」で六畳書房さんでと仰っていただけでいるのに申し訳ないです。



六畳書房 店番 武藤拓也

今後当初のとおりに「在り続けること」を目標とし、浦河に必要とされる存在として定着させていきたいです。そのためにもなにかしらないとあとも思いつ、毎週月曜日は変わらず店番をしておりますので、今後とも変わらぬご愛顧のほどよろしく願っています。

そういうわけで、あまり本の入れ替えができず、要望にも応えられず、出張販売もできず、いまは半分くらいまで売上が落ちてしまっています。正直なところ今は、僕自身を含む数名のボランティアで協力しながらとりあえず維持しているような六畳書房の現状です。



店番をさせてもらいました！



六畳書房

南向きの広い縁側、たくさんの引き戸。住宅街にひっそりと建つ古い木造家屋の六畳書房は、何とも昭和の雰囲気あふりのレトロな空間です。

8月3日、月曜日。この日、数時間だけの「店番」を担当できる人がいないかな？という声を耳にして「にわか店番」を申し出ました。

午後1時から夜10時までの営業時間の中、開店してから3時間ほどの短い時間でしたが、六畳書房での楽しい時間を過ごして来ました。

毎年のように浦河に来ている短期移住者の方に連れられて、初めて来店された浦河町民の方。少し早いお盆の帰省を利用して、小さな子どもさんたちと一緒に来店したお母さん。皆さんともリラックスしながら本を開いて、ゆったりと過ごしていかれました。



予約していた本を受け取りに来たのは一口店長でもあるお客様。本棚に並んでいた自分のおすすめ本を片手に、「この本とてもいいんだけど、売れないのかなあ...」と思わずポツリと一言。すると、「そうなんですか？ わたし、読んでみようかな」と。そして「この本ください」と。その本がお客様の手に移りました。こうして出番にも恵まれてなんだかうれしくなったにわか店番のわたし。

「ここで一緒にお茶でも飲みませんか？」と勝手にお茶をすすめて、ささやかなこたつカフェが誕生。なんとステキな六畳書房のひととき♪ありがとうございます。



「フェイスブックなどから最近の浦河の楽しそうな情報を知っていて、ぜひ、来てみたかったんです。」と話してくれたお母さん。今暮らす関西での生活の方が生まれ故郷の浦河よりもすでに長いそうです。

「自分のふるさとの気付いていなかった魅力や、元気な様子が伝わってくるのはうれしいですね」と話してくれました。六畳書房が在り続けることを応援したい者の一人です。

マックス



種畜牧場としてJRA日高共同育成牧場への移り変わり、今の浦河港が出来るまでといった、浦河の歴史の転換点の先人の努力についてのお話です。限られた時間内でしたが、知らなかった浦河の先人の努力や苦労がとてもよく伝わった熱いお話でした。



サブタイトルにある「漁港、馬産、移住」について、明治期の西舎や杵臼の開拓のお話や種馬牧場から

若い人に伝えたい歴史がある

今年で町制100周年を迎える浦河町。開拓期まで遡れば百年以上の歴史が積み重ねられてきました。今回のカフェマスターは「お料理松山」の松山和弘社長。日頃から歴史が好きで、9月には浦河の昔の風景の写真展を企画していられつやいます。そんな松山さんから、浦河の先人たちの歴史をお話していただきました。休業日のお店を提供していただいた会場では、中に入った途端、松山さんによって用意された昔の浦河の資料の展示が目に入ります。「話がより分かりやすいように」と配慮されたこれらの資料を参加者の皆さんも興味津々に見入っていました。



20～30代の参加が多く、みなさん真剣に耳を傾けていました

途中、私たち主催者も知らないサプライズゲストとして、松山さんの先輩である元浦河商工会議所青年部会長の金岩武吉さんが登場。(数日前に偶然出会った際に松山さんが打診してくれていたそうです。)この日の参加者は26名でしたが、初参加の金岩さんは、たくさんの若者が参加していることに驚くと共に大変喜んでいらつやいました。

金岩さんからは、現在の大通の国道拡幅の際のお話を聞かせていただきました。それまで描かれていたバイパス計画に危機感を持ち、商工会議所青年部を中心に、町内の様々な人を巻き込みながら対案をつくつていった過程のお話は、まるでひとつのドラマのようでとても興味深く聞き入りました。

松山さんが最後に、「先人の財産を食いつぶすことなく、その上に町をつくつていかないと。そのためには若い人に歴史の話を伝えていきたい。」と仰つていた言葉が心に響きました。町制100周年という節目を迎えている今年、地域デザインカフェも色々な人の営みを知り、これからのまちづくりを考える場のひとつにしたいと思っています。

うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会
村下知宏

町の歴史から学ぶ...



浦河町町制100周年記念 郷土博物館企画展

写真展
「写真で見る町制100年」

日時 / 平成27年8月2日(金)～8月23日(日)
午前10時～午後8時(最終日は午後8時まで)
会場 / ショッピングセンターMIO
入場料 / 無料

主催 浦河町立郷土博物館 後援 浦河町立郷土博物館友の会

この写真は、浦河のどのあたりかわかりますか？



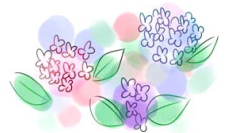
Mioで開催された「写真で見る町制100年」の会場風景と浦河港の写真(大正10年)

最近読んだ本の中より…



おがわみめい
『小川未明童話集』

小川未明 著 (1882～1961) 新潮文庫



その晩、太郎は母親に向かって、二日も同じ時刻に、金の輪をまわして走っている少年のことを語りました。母親は信じませんでした。太郎は少年と友だちになって、金の輪をひとつわけてもらって、往來の上を二人でどこまでも走ってゆく夢を見ました。明くる日から、太郎はまた熱が出ました。そして、二、三日めに七つで亡くなりました。『金の輪』より

『金の輪』は七才の子が病で亡くなる、悲しいですがとてもうつくしいお話です。小川未明の代表作のひとつだそうです。わたしも五才のときに死にかけました。三輪車がひっくり返り頭からドブに落ちて、泥水を飲みました。全然うつくしくありません。熱が出て、寝込みました。次の日の朝、所用で札幌に行く父親に、お土産はブリキのバスが欲しいと頼みました。はつきりとそのことを憶えています。

母の話ではそれからほどなく、高熱でわたしは意識がなくなり、ました。駆けつけたお医者さんが、この子は駄目だから父親を呼び戻しなさいと言われ、電報を打ったといひます。列車で父は戻ってきました。

一晚、生死の境をさまよったわたしは、翌朝意識を取り戻しました。両親によると、それから毎日腹減った、ご飯食べさせると泣いて大変だったのだそうです。枕元にはブリキのバスがありました。

ここから記すことは、信じない方がいてもちつとも構いません。わたしは、意識が無くてこの子はどう死ぬと言われたそのときのことを、よく憶えているのです。髭を生やしたN先生の診察している姿、横にいる母親、心配してたずねてきた人たちを天井の方からながめていました。きれいな花畑に立つひとが「おいで、おいで」と呼んでいました。呼ばれたけれど、行きませんでしたよ。おかげで、あの時から五十年も長く生きることができました。

小川未明は三十二才の時、長男を病気で亡くしています。六才でした。『金の輪』は、それから五年後に書かれたものです。この新潮文庫は買った記憶がなく、古本市で手に入れたのではないかと、思っているのですが、有名な『赤いろうそく』と人魚』をはじめ代表作が収められています。『鉛チヨコ』の天使』や『小さい針の音』がとくに好きです。映画にもなりそうですね。

わたしは無粋な人間なので、ふだん童話を読んだり絵本を眺めるということはありません。小川未明に興味を持ったのは、片山杜秀氏の『未完のフアシズム』で未明の『戦争』という作品が紹介されていたからです。我が子を失った未明には、戦争で人が死ぬことが他人事と思えませんでした。未明が戦争をどうとらえていたか、『戦争』から引用したいと思います。

その事実を経験しないものに、どうして同じ心がわかりましょう。苦悶や煩悶がわかりましょう。戦争をしている者は、自分以外の彼らではありませんか。なんでこの街に住んでいる人々に戦争がありましょう。なんで戦争ということがわかりましょう。戦って血を流している人間だけに「戦争」があるばかりです。

*この末尾の引用は、片山氏の著書『未完のフアシズム』からの孫引きです。

小説家 児童文学作家、小川未明(本名は小川健作)。長編よりもむしろ短編作品に才能を発揮した童話作家。代表作としては、『金の輪』、『赤い蠟燭と人魚』、『月夜と眼鏡』など。その多作ぶりから「日本のアンデルセン」とも評される。

■ 社長も仲間入り? 「マルセイ釣りクラブ」楽しんでいます!



拝啓 マックス様
東京方面はこのところ連日三十五度を超す猛暑日が続いております。マルセイニュースを拝読する度、郷里浦河でのことが、なつかしく想い出されます。
今回心打たれた記事のひとつに、魚釣りがあります。浦河港での最高の醍醐味である魚釣りは、いかに大型のガヤを釣るか、でした。南防(赤防)の最先端は、最高の釣り場でした。あなたと氣田氏の釣り上げた良型のガヤ。身震いするほどのなつかしい感動! 俺も釣りたい! 当時、少しでも大型のガヤを求めるべく三才上の兄と筏(いかだ)を作つてのガヤ釣り。釣りに熱中し夢中で、気がつけば筏もろとも外海に流され、海上保安庁の船に救助され：なつかしい想い出です。
東京浦河会 H・N

うれしいお手紙を頂きました。先月号の釣りの紹介記事には、他にも思いがけないたくさんの反響があつてびっくり! 「釣り」って人気があるんですね。いやいや、わかります。ついに私も、自分の釣り竿を買っちゃいましたから。(竿とリールを合わせて、2千円くらいでした。)

上の写真は、ある日曜の朝の赤防です。暑かったけど、楽しかった♪ 日が落ちるのも早くなりましたが、まだまだ楽しみたいです!

マックス



慌てていたので卵黄が真ん中になっていない～

ガスを使っておいしくクッキング **ニラトマ☆スタミナ丼**

フライパンひとつで簡単にできます。ピリ辛キムチとにんにくが食欲を刺激するおいしいスタミナ丼。食べると体力回復まちがいなし♪ トマトの酸味と卵黄のマイルドさが、これまたいいんです！ 忙しい日にもおすすめです^^



●材料（2人分）

豚バラ薄切り肉	120g
白菜キムチ	200g
ニラ	6本
トマト(ミニトマトでもOK)	1個
にんにく	1片
オイスターソース	小さじ2
塩、こしょう	各少々
ごま油	大さじ1
ごはん(温かいもの)	丼2杯分
卵黄	2個分



トマトが
おいしい！

●作り方（参考 クックパッドレシピ）

- 1、豚肉は3cm幅に切り、キムチは大きければ細かく刻む。
ニラは3cm幅に切り、トマトはざく切り、にんにくは薄切りにする。
- 2、フライパンにごま油を熱し、にんにくを炒め、香りが立ったら豚肉、キムチを加えて炒める。
- 3、オイスターソースをかけて、塩、こしょうをふり、ニラとトマトを加えて**さっと**炒める。**ここで火を加えすぎないことがポイント！**
- 4、丼にごはんを盛り<3>をのせて真ん中をくぼませ、卵黄をのせて出来上がり。



「今日はスタミナ丼だよ～」と、力仕事の日でした。ガッツリとにんにくを効かせ、豚バラ肉もたっぷり入れたスタミナ丼で試食ランチ♪「うん！これうまい！」と、5合炊いたご飯をペロリと完食。ばわふるが、「これって豚キムチに近いね」と言っていたのですが、トマトの酸味と卵黄が加わることで思いがけないほど夏向けのメニューになっていました。この日は、ばわふる好みの甘口キムチを使用しましたが、ピリッとした辛口キムチの方もおいしそう！ 今度は辛口キムチで作ってみたいです♪

所用で試食タイムに席を外していたばわふるさん。少し遅れての試食に、「私は載せる具が少～しあればいいから」と言っていたはずなのに…。「うん！おいしい、おかわり！」「あれ？ごはんも黄身もないの？」。そして、そこで減点するなんてー！ やっぱ、大盛りで用意しておくべきでした。笑

マックスも、高得点をマーク！

試食した人	今日の料理は★いくつ？(最高得点 ★3個)
社長 (2.0)	★★ 本当は★★★なんだけど、手伝ったのに、「要領悪い」と言われた分が減点だな～。笑
エイジくん (3.0)	★★★ うまいね。これ、作ってみたいくなるね。
キョウちゃん (3.0)	★★★ 卵がいいですね。お腹いっぱい食べられます。
あきらくん (3.0)	★★★ トマトが入っていて、夏場でも食べやすいですね
ばわふる (2.7)	★★★ 私には、ご飯と卵がなかったから～
マックス (3.0)	★★★ 5合炊いたご飯を完食！ 正にスタミナ丼！



手前左からキョウちゃんこと恭平くんとお髭のエイジくん。手前右は帰省中にアルバイトで力を貸してもらったおかんの息子さんのあきらくん。そして社長^^

社長のちよつと長いコラム

「不良少年、逝く」

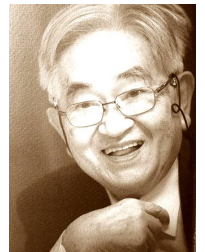
いつだったか人と話をしている年輪のことになりました。58才だと答えたら、妻に一つ違う57才だと訂正されました。確かにそうですね。でも、一つや二つのちがいがいい、もうどうでもいいんですね。そのうち、三つや四つのまちがいがいも気にならなくなるのでしょうか。

60年近く生きてくると、失敗も数限りなくあります。もう、思い出すのもおどろしいしくじりも、一つや二つではありません。『アントキノイノチ』という映画の中で、遺品整理屋に扮する原田泰造が、「生きていくつちゅうのはナ、ホンマに恥ずかしいことなんや。」と岡田将生につぶやく場面があるのですが、映画を見ながら本当にタイズウの言うとおりだと思つたものでした。

恥ずかしいとは少し異なりますが、ああ俺は間違っていたと気づいたこともたくさんあります。その中でも、自分が悪いと思つていたり正しいと思つていたりしたことが違つた、両膝をついてここから先は一からやり直さなければならぬと観念したことはあるかと訊かれたら、まあ無かつたわけではありませぬ。挫折したことのない人も少ないでしょうが、わたしも自分の挫折の中から多少なりとも学んで今日までやって来ました。



吉田拓郎の歌ではありませんが、明日からもこうやって生きていこうと思ひます・・・。



去る7月20日、鶴見俊輔さんが亡くなられました。祖父は後藤新平で、名前は伊藤博文に由来します。

す。どうしようもない悪ガキで、小学校を放校されアメリカへ留学。日米開戦により米国で逮捕され、捕虜収容所を経て帰国します。「米国が勝つことは分かり切つていたが、勝つ側に残るのは不良少年としてイヤだったので帰国した。」と述懐していますが、軍隊ではジャワ島に赴任しました。

戦後は一貫して市民による平和運動の定着に尽力し、93才で亡くなられました。マルセイニュースでは鶴見さんの随筆集『思ひ出袋』を紹介することがあります。鶴見さんは「まちがいがいい主義」という考えを大切にされていました。まちがいを認めることはひじょうに大事だと繰り返し言っています。

これはまちががつていたと思つて、膝をつく。そこから始まるんだ。まちがいの前で素直に膝をつく。それが自分のなかの生命となつて、エネルギーになる。

優等生は時流に便乗して動くので、いつも間違えないという痛烈な批判もこめられています。鶴見さんが亡くなられて多くのエライ先生たちが追悼を寄せましたが、忘れがたい追悼記事を見つけた。佐藤忠男氏(評論家)によるその文章には、「数十年前に田舎で工員をしながら書いた投稿に、鶴見さんが目を通して手紙をくれ、並み居る学者たちと一緒に研究者として紹介してくれた。」と書かれていました。こういう鶴見さんが大好きでした。

さのばわふる日記



なんと！
当社の忘れ物王から、忘れ物女王と認定されそうな事態がおきました。
ありえない！

夕方、信金さんから電話があり、「忘れ物してないかい？」と言われ、そんな事言われても、忘れた自覚がないので何のことやらしく状態の私。「ATMのところに忘れなかつたかい？」
そう言われて、ハッと思い出したので。

会社と自分の定期積立を作り、粗品をいただき、その袋の中に証書2枚を入れ、現金を引き出すのにATMへ...もちろん袋は邪魔になるので目の前の棚に置き操作。

目の前に置いた物を忘れるはずがないでしょう普通。普通は忘れないんですよ！

どうしたことでしょう、何が起きたのでしょうか。操作が終わった時には、私の目に袋は映つていませんでした。それが午前中の事。

信金さんからの電話は夕方。その袋は、そのままそと置かれていたのでしょうか。大事な証書を入れたまま忘れるという大失態。



信金の方が、わざわざ会社まで届けてくれた時、当社の忘れ物王の社長、突然不審な動きをしたかと思うと「証拠写真真だ！受取ることを写すから」とカメラを構え、手渡してくれた信金の方に「しっかりと注意してやって下さい。」と言いながらカシヤカシヤと写し、私へ猛反撃！

先月忘れ物王の事を暴露したばかりに自分へ返ってきたというお話。

その後、社長が「忘れ物は人に言われないうと忘れた事にも気づかないんだよね」とポツリ。
はい！社長、よく分かりました。

発行 株式会社マルセイ

灯油・プロパンガス販売・機器修理

廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業

夏季期間(4月~10月) 定休日: 日曜・祝祭日 営業時間 8:30~5:30土曜3:00



編集 おはなし家(マックス) 発行部数 3400部

【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com

【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してみてください

〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3

TEL 0146-22-5123 FAX 0146-22-5789